

## 調査報告概要表

作成日 2007年4月4日

### 【評価実施概要】

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホームけやきの里
所在地 (電話番号)	鹿児島県枕崎市まかや町679番地 (電話) 0993-76-3462
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年4月4日

### 【情報提供票より】(平成19年3月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成11年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤	人, 常勤換算 3.8 人

#### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 200 円
	夕食	200 円	おやつ 円
	または1日当たり 600 円		

#### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1		要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	名
年齢	平均 83 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・サザン・リージョン病院 ・ウェルフェア九州病院 ・山之内歯科医院
---------	-----------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれたけやきの里では、開聞岳を眺めながら四季折々の風景が楽しめる。ベランダでは犬を飼い、利用者が世話をし、ともに戯れる姿が印象的である。併設の特養やデイケアの職員との交流もあり、安全面での目配りや連絡体制も充実している。敷地内には、地域に温泉施設として開放している交流センターがあり、地域住民の往来が多く、利用者との交流も盛んである。職員はケアに対する意識度が高く、管理者を中心に職員がよくまとまっており、家庭的な雰囲気の中で利用者は安心して生活している。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前は、運営理念が法人全体の理念であり、重要事項説明書に理念の記載がなかったが、その後、グループホームの特性を踏まえた地域密着型サービスとしての理念を、職員全員で検討し作り上げている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政担当者や地域の代表者、利用者家族等に対して状況報告をするとともに、今後の取組みや、グループホームへの意見等を話しあう場に行っている。さらに、運営推進会議を意義あるものとして継続できるよう、会議のテーマについても検討がなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>園だよりを発行し、日常の生活ぶりを定期的に家族へ報告している。また、家族間で交流して頂き、意見要望を出してもらえるように常に職員のほうから声かけを行っており、出された意見要望に対しては、早急に話し合いをしておこなっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>併設事業所の開催する行事への参加や同敷地内の交流センターの利用などを通して、地域の人々と交流する機会を設けている。日常的にも散歩をしながら声をかけるなどの取組みが行われており、近隣住民との関係作りもできている。</p>

## 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの特性に合った理念を職員全員で再検討のうえ作成し、その中に地域との交流についても盛り込んである。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、目につきやすい場所に理念を掲示し、毎朝申し送り時に唱和して理念の実現に取り組んでいる。今後も意識づけと理念の実現のために継続する予定である。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設事業所の行事参加や敷地内の交流センターを利用するなどして、地域の人々と定期的に交流する機会を設けている。日常的にも散歩をしながら声をかけるなどの取組みが行われており、近隣住民との関係作りもできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。外部評価の意義についても理解しており、前回の評価をいかして具体的な改善策をとっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者や集落の方・利用者家族などに対して、状況報告をするとともに、今後の取組みや、グループホームへの意見等を話しあう場になっている。さらに、運営推進会議を意義あるものとして継続できるように、会議のテーマについても検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは顔なじみの関係であり、電話での問い合わせをもらったり、折にふれ立ち寄ってもらったりすることで連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	園便りを発行し、ホーム全体の様子と利用者の様子について定期的に報告している。面会時や担当者会議などを利用して、家族に出納簿の確認をして頂いている。		家族によっては来訪頻度に幅があるため、金銭管理に関しての報告期間に差異がある。1・2ヶ月ごとにホームから報告することで、ホームに関心を持って頂けることもあるので、検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の折ごとに、家族同士で交流を図っており、意見や要望などを呼びかけている。出された意見要望は、早急に職員間で話し合い対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの管理者や職員による支援の重要性を十分認識しており、法人内移動もなく安定したケアを提供している。やむなく離職の際は、極力利用者へのダメージがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員は、研修報告を行い参加記録も残している。毎月1回の法人勉強会にも交代で出席するほか、ホーム内勉強会を月に2回開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南薩グループホーム協議会に入会し、ネットワーク作りを開始している。他のホームに見学に行ったり、スタッフ間で情報交換を行ったりして質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を決める前に、利用者と家族に部屋のつくりや暮らしぶり、食事の様子などについて見学してもらう機会を設けている。利用開始してからも家族と連絡を取り、面会相談を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や昔からの風習などについて、職員が利用者から教えてもらう場面が多々ある。利用者を、人生の先輩という姿勢で接するよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者の希望や意向を引き出すように努めており、「気づきノート」に記入することで情報の共有を図っている。なるべく、一人ひとりの出番があるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画となるように関係者と話し合い、担当職員をはじめ、職員全員の意見を反映した介護計画を作成している。作成した計画は、職員の目につきやすいピングに置いてある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもとより、状況の変化に応じた計画の見直しが行われている。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、必要時には家族を交えたカンファレンスを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎の支援など、本人や家族の状況によって発生するニーズに柔軟に対応している。今後は、ショートステイ体験なども検討する予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携をとり、通院や往診など必要な時に、適切に医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望や主治医の意見を聞きながら連携を図っている。職員も終末期ケアの必要性を感じており、今後は職員全員での研修を予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	名前の呼び方に配慮するとともに、できるだけ敬語を使うようにし、一人ひとりの誇りを大切にケアを目指している。個人情報保護に関する勉強会を実施し、職員の意識の向上に努めている。電話対応や家族情報についても注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ね規則正しい生活を心がけた声かけは行っているが、起床時間など利用者のペースを大事にし、無理強いをしないように努めている。業務の流れや職員の都合を優先させることはないよう、希望にあわせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、それぞれができることを分担して行い、一緒に食事作りや後片付けに取り組んでいる。季節のものを調理・下ごしらえすることで、楽しみながら食すことができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、状態の変化や利用者の希望により、柔軟な支援を取りいれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で、洗濯ものたたみ・食事やおやつの準備・ゴミ捨て・買い物などそれぞれ役割を持って生活している。また犬の餌やりや散歩などを楽しむ利用者もあり、けやきの木の下で自由な時間を過ごすこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事以外でも、天気や体調にあわせて交流センターに来る地域の方々や戸外で過ごしたり、時には自宅までドライブに出掛けたり、墓参りに行ったりしている。近隣を散歩するなどの取組みも行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し、外出したらともに付き添い散歩をし、鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。同敷地内の併設事業所の職員も注意を払ってくれており、見守り体制が整っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方々や消防署、併設事業所とも連携を図り、定期的に防災訓練を行っている。火災防止のため、オール電化としている。災害備蓄は併設事業所で管理し、定期的にチェックしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士のアドバイスをもらい栄養管理をし、月に一度の体重測定で状態を把握している。また、食事及び水分摂取量の把握も行い、記録として残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関をはじめ、ホームのいたるところに季節の花が生けてあり、節句の飾り物で季節感を出し、生活の中の刺激となっている。自然光が入り、ゆったりとした空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家財道具を自由に持ち込んでもらい、それぞれの居室作りに取り組んでいる。家族からの協力を得ながら、昔から使っていた布団や鏡台などを居室に置き、本人が安心して過ごせるような支援が行われている。		